



世界に水俣病を伝える

『環境首都水俣』に学ぶ水高生から世界への「いのち」の発信



熊本県立水俣高等学校 2年生2名

壹 調べた理由

通信技術が発達した現代社会において、水俣病と「いのち」をマス・メディアの視点からどのようにつなげ世界へ発信しているのか知りたかったから。

貳 調べた結果

水俣病は終わっていません。公害を起こさないでください。女の人と子供を守ってください。



2017. Aug
スイス・ジュネーブ
(左) 坂本しのぶさん

2019. Aug 松永幸一郎さん

世界中の人に水銀の怖さを知ってもらいたい。患者は一生この病気と付き合わなければならない、治る薬もない。いま、世界の国々がきちんと規制をしなければ、未来の子どもたちが私たちと同じような被害を背負うかもしれない。**日本が犯した過ちを繰り返さないでほしい。**

2018. 10. 3

モンゴル国立淡水・自然保護センター中庭において「水俣病」を紹介する写真展のオープニングセレモニーが行われた。この企画はモンゴルと日本の政府の協力により日本から水俣病の写真30点が持ち込まれて開催された。このように海外政府が主体となって、広く一般市民に長期間にわたって紹介するのは**世界で初めての試み**。



参 感想

マス・メディアを通して水俣病を伝えるという手段は、あまり使われていないことが分かった。患者さんの声を世界に届けることや、実際に当時の水俣で撮られた写真を展示することが、世界に水俣病を伝えるための有効な手段ということがわかった。今の時代、インターネットはとても便利なものではあるが、誤った情報も出回っている。だから、マス・メディアが正しい情報を得るための手段として活躍するべきだ。